



特別展

江戸の街道をゆく 将軍と姫君の旅路

CONTENTS

- エッセイ 「収蔵のよろこび」 東京都江戸東京博物館館長 藤森照信
- 2019年度 企画展・特別展ラインナップ
- 企画展 市民からのおくりもの2018—平成28・29年度 新収蔵品から—



復元建造物の維持管理

江戸東京たてももの園では、雨や風などの自然環境を考慮しながら適切に建物を維持するためにさまざまな修繕工事を行っています。

建物の維持に大敵なのは雨です。屋根に降る雨はもちろんです。雨水のはね返りによる外壁や土台への影響、建物のまわりの樹木の葉や枝の落下による雨樋の詰まり、雨が止んだあとに建物に乾くまでの時間など、雨がもたらす日々の小さな影響が、実は建物の寿命に大きく関わってきてしまうのです。

雨による劣化の影響を抑えるために、今年度は高橋是清邸・西川家別邸・田園調布の家(大川邸)の瓦の修繕工事を行いました。傷んだ古い瓦を新しい瓦に取り替え、改めて大棟や降棟の積み直し、雨樋の修理を行い、屋根からの雨の侵入を防ぐ措置を施しました。

貴重な文化財を後世に伝えるため、今後も計画的に修繕工事を進めてまいります。修復後の復元建造物をお楽しみいただければと思います。

(学芸員 高橋 英久)



高橋是清邸屋根瓦の修繕の様子

催し物のご案内 春期ふれあい体験教室

事前応募制教室 ● 定員:20名 対象:一般

● 歴史散歩「江戸城西側外堀沿いの大名屋敷を歩く」

日時:5月25日(土) 13:00~16:00
*雨天時は6月1日(土)に順延
対象:高校生以上
応募締切:5月11日(土)



お申し込み方法

往復はがき(62円×2=124円)にて下記①~⑤を明記の上、ボランティア事務局までお申し込みください(締切日消印有効)
①希望講座名 ②住所 ③氏名(ふりがな/2名様まで) ④年齢 ⑤電話番号
〒130-0015 墨田区横綱1-4-1
江戸東京博物館 ボランティア事務局 ふれあい体験教室係

当日受付教室

*開催場所は、常設展示室5階ミュージアム・ラボ(4月27日(土)、4月28日(日)、6月29日(土)を除く)

● ふんぶんコマを作る

日時:4月6日(土) 13:30~15:00 (12:50より会場前で整理券配布)
対象:小学生以上(ただし小3までは大人と一緒に) 定員:30名

● 和算パズル

日時:4月13日(土)、6月8日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小4以上

● 反古紙で折る小物 —江戸のエコロジーを見習おう—

日時:4月13日(土)、6月8日(土)
各日13:00~15:30(受付終了15:00)
対象:小学生以上



● ときめきキモノ体験

日時:4月21日(日) 10:30~12:00 (受付終了11:30)
対象:3歳以上 定員:25名程度

● 藍でコースターを染めてみよう(両国にぎわい祭り江戸博会場イベント)

日時:4月27日(土) 12:30~14:00 (12:20より会場前で受付・整理券配布)
場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所(看板あり) *雨天などによるひろば閉鎖時は中止
対象:小学生以上 定員:60名

● 歴史散歩「両国界隈を歩く」(両国にぎわい祭り江戸博会場イベント)

日時:4月28日(日) ①10:30~11:30 ②13:30~14:30 (各回15分前より受付)
集合場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所
*雨天などによるひろば閉鎖時は中止
対象:一般 定員:各回20名



● 歌舞伎の鳴り物を鳴らしてみよう

日時:5月18日(土)
①13:00~13:30 ②14:30~15:00
*各回とも時間内にお越しください。
対象:3歳以上

● 江戸文様で遊ぼう —消しゴムはんこで千代紙をつくる—

日時:6月22日(土) 13:00~15:00
対象:小学生以上 定員:50名



● 手描き風鈴を作る

日時:6月29日(土) 10:00~11:00
場所:3階江戸東京ひろば北側休憩所 *雨天などによるひろば閉鎖時は中止
対象:小3以上 定員:20名

ミュージアムトーク

● 常設展示室のみどころを学芸員が解説します。 ● 日時:毎週金曜日16:00から
● 常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

企画展「市民からのおくりもの2018—平成28・29年度 新収蔵品から—」 4月5日・12日
江戸の商業 4月19日・26日

モダン東京 5月3日・10日
出版と情報 5月17日・24日
江戸の美 5月31日

地域展「道灌がみた南武蔵」 6月7日・21日
文明開化東京 6月14日・28日

お問い合わせ 03-3626-9974(代表)
ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2019年(平成31)3月11日(月)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
制作・印刷 美術出版社 デザインセンター

表紙解説

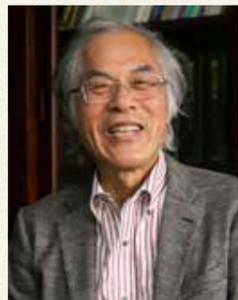
東海道 鳴海
歌川国綱(二代) 画
1863年(文久3)4月
資料番号 96200463
特別展「江戸の街道をゆく」で展示
【展示期間:2019年5月28日(火)~6月16日(日)】

「東海道名所風景」の一場面、鳴海宿(現・名古屋市)を通行する将軍の行列を描く。鳴海宿の特産品は有松絞りで、画面左の店先には彩り鮮やかな反物が並べられている。



「収蔵のよろこび」

東京都江戸東京博物館館長 藤森 照信



館長に就いてから3年になります。創設準備の段階から展示などに関わっていたから、館の内容については知っているつもりでしたが、運営についてはまるで無知であることを館長になってから思い知りました。運営のうち、私が一番楽しみにしているのは収蔵です。歴史的史料、生活史的資料や美術品を収集するという博物館の基本的任務の一つです。

収蔵という営みは収蔵品の出現からスタートします。さまざまな出現の仕方があり、まず個人の所蔵者が寄贈したいと連絡してくる場合があります。すべてを受け容れるわけにはいかないので、専門の見地からチェックし当館にふさわしいものは収蔵します。そうした貴重な史・資料の一部は市民からのおくりもの」と銘打って企画展示室で公開されます。

開館前の準備時代から、さまざまな史・資料が寄贈され、博物館としては歴史の浅い当館の研究と展示を支えてきてくれた

し、これからも支えてくれるでしょう。

寄贈と並ぶもう一つの柱として有償での収蔵である購入があります。こちらは、所蔵者または専門業者の情報提供を受け、収集を受け持つ学芸員がまずコレクションにふさわしいかどうか検討し、年に2回開かれる外部専門家からなる収蔵委員会にはかり、可となったものはさらに価格についても外部専門家により評価されて、最終的に収蔵されます。

こうしたさまざまな道筋を経て出現した収蔵品が博物館の一室にズラリと並べられる日が年に2回あり、その日は朝から心が浮き立ちます。江戸時代の有名な浮世絵や有名画家の屏風、また華やかな漆器や衣装、貴重な文書、あるいは震災復興期のポスターや絵葉書などが、博物館にとっては同じ価値を持つものとして目の前に並びます。

歴史に携わってきてよかったナア、と心が満たされる二日です。

4月27日、一年半ぶりに、特別展が再開します

※展覧会名は変更する場合があります。

① 「江戸の街道をゆく」

〜將軍と姫君の旅路〜

2019年4月27日(土)〜6月16日(日)

※p3〜p4の特別展紹介をご覧ください。

② 「江戸のスポーツと東京オリンピック」

7月6日(土)〜8月25日(日)

江戸時代に行われていた日本の伝統的「スポーツ」、打毬や蹴鞠、相撲などの様子から、近代スポーツの受容と普及、東京で開催された1964年のオリンピック・パラリンピック、そして「東京2020大会」の開催までをテーマとする展覧会です。江戸時代の絵画や道具類、近代オリンピックで活躍した日本人選手の競技用具とメダルなどを展示し、日本におけるスポーツとオリンピックの歴史をひもときます。東京で2回目となるオリンピック・パラリンピック開催の1年前、期待感を盛り上げます。



新版 運動双六
秋山武右衛門 発行
1887年(明治20) 資料番号 96200432

③ 「士サムライ」

―天下太平を支えた人びと―

9月14日(土)〜11月4日(月・休)

日本をイメージするキーワードとして、国内外を問わず多用される「サムライ」。しかし、その言葉は多分に感覚的なものです。そこで本展では、現代のサムライのイメージの原点である江戸のサムライを取り上げ、その実相を明らかにします。武家伝来の所用品と絵画・古写真とを展示し、道具と風景の両面から、江戸に暮らしたサムライの姿を新たな視点で紹介します。



久留米藩士江戸勤番長屋絵巻 酒宴の図
三谷勝波 画 戸田熊次郎 賛 明治期
資料番号 86200129

④ 「大浮世絵展―歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演」

11月19日(火)〜2020年1月19日(日)

2014年(平成26)に好評を博した「大浮世絵展」の第2弾を開催します。浮世絵の通史を紹介した前回の内容をふまえて、今回は喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳の5人の絵師の得意ジャンルに焦点を絞り、国内外の傑作か

① 発掘された日本列島

2019年

6月1日(土)〜7月21日(日)

② いきものがたり

―江戸東京のくらしと動物―

8月6日(火)〜9月23日(月・祝)

③ ソウル歴史博物館との国際交流展

「ユ・マンジュのハニヤン」

10月22日(火・祝)〜12月1日(日)

④ 徳川宗家展

2020年

1月2日(木)〜2月16日(日)

⑤ 市民からのおくりもの

2019年

3月10日(火)〜5月6日(水・休)

※展覧会名及び会期は変更する場合があります。

2019年度 企画展ラインナップ

常設展示室内 5F企画展示室

常設展観覧料でご覧になれます。

ら浮世絵版画の魅力を存分にお伝えします。世界からも注目される人気絵師の美の競演を、どうぞお楽しみください。



かせんこいぶのものおもつこい
歌撰恋之部 物思恋
喜多川歌麿 画
1793(寛政5)年頃
資料番号 16200003

⑤ 「江戸ものづくり列伝

―ニッポンの美は職人の技と心に宿る―

2月8日(土)〜4月5日(日)

明治前期に日本を訪れたヨーロッパ貴族バルディ伯爵の日本コレクション(ベニス東洋美術館所蔵)を日本で初めて公開します。あわせて、江戸東京で活躍した職人たちの仕事と人生に光をあて、日本が世界に誇る「ものづくり」を紹介し、江戸を代表する時絵師・原羊遊齋と柴田是真、葛飾北斎の弟子で絵師から金工の道に転じた府川一則、尾形乾山の陶芸を継承した鬼才の陶工・三浦幹也、超細密工芸を究めた小林礫齋といった5人の名工の作品を中心に展示します。



脇指 銘(菱紋)以南蛮鉄於武州江戸/越前康継
越前康継(二代)作 江戸前期 資料番号 99003177



みどころ

華麗なる姫君の
婚礼行列
楽宮下向絵巻(部分)
青木正忠/画 1804年(文化元)
資料番号 13200210

みどころ

将軍家光の
日光社参
日光東照社参詣図屏風
江戸前期
資料番号 95202772
(展示期間:4月27日(土)~5月26日(日))
【5月28日(火)~6月16日(日)は複製(資料番号 13900005)を展示】



特別展

江戸の街道をゆく 将軍と姫君の旅路

2019年4月27日(土)~6月16日(日)
1階特別展示室 ※会期中に展示替えがあります。

江戸時代、幕府によって整備された街道は、さまざまな人や行列が往来し、活気にあふれていました。なかでも将軍や姫君たちの行列は長大で、沿道の人々を圧倒し、幕府の権威を誇示しました。

本展覧会では、将軍の上洛と日光社参(日光東照宮への参詣)、姫君たちの江戸下向に関わる資料を通して、「江戸の街道」における旅路を辿ります。

プロローグ

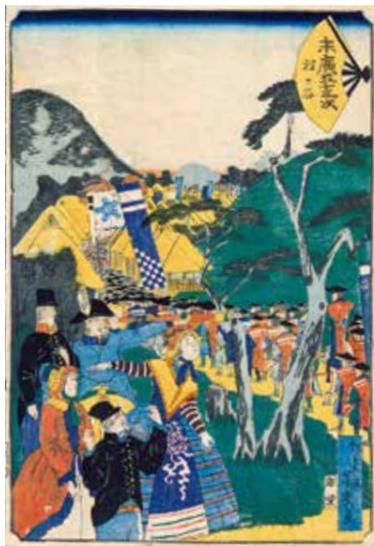
「江戸の街道」の起点と定められた日本橋は、1603年(慶

長8)頃に初めて架橋されたといわれます。火事などによって何度も損壊しましたが、そのたびに、架け替えられました。日本橋とその周辺は、江戸経済の中心地として全国から人々が集まり、大変な賑わいを見せました。

第1章 武家の通行

威信をかけた旅路

泰平の世となった江戸時代、将軍は戦で武力を行使することがなくなり、上洛や日光社参によって武威を誇示しました。供奉する幕閣や大名、旗本・御家人によって長い行列が組まれ、その



みどころ

外国人も見た将軍家茂の行列
未広五十三次程ヶ谷
歌川芳幾/画 1865年(慶応元) 閏5月
資料番号 17200549
【展示期間:4月27日(土)~5月26日(日)】

様子は「武家の棟梁」にふさわしいものでした。

大名は、参勤交代の際に行列を組んで江戸と国許を行き来しました。全国の諸大名が各宿場を通行したことで、地域の振興や文化の伝播をもたらすこととなりました。

第2章 姫君の下向

華麗なる婚礼の旅路

徳川将軍家は、三代将軍家光以降、摂家と宮家から正室を迎えることを慣例としました。姫君は行列を組んで京都を出発すると、主に中山道を行って江戸に向しました。その理由は、中山道は河川の氾濫がほとんど無いため、予定通りに到着できる利点があったからです。

婚礼の際には、姫君の新たな生活を彩る婚礼道具が制作されました。数々の道具を携え、大勢で道中を練り歩く行列は、沿道の人々を驚かせたことでしょう。

第3章 幕末の将軍上洛

描かれた徳川家茂の旅路

1863年(文久3)、十四代将軍家茂は、三代将軍家光以来

229年ぶりに上洛します。ペリー来航以降、攘夷をめぐって対立した朝廷との融和を図り、幕府権威の回復を狙ったものでした。その後も1864年(元治元)、1865年(慶応元)と合計3回上洛しました。

将軍の上洛は大きな話題を呼び、その様子が錦絵に描かれました。文久の上洛を描いた「東海道名所風景」(御上洛東海道)と、長州征討を目的とした慶応の上洛を描いた「末広五十三次」です。この二種類の錦絵は、歌川広重が描いた「東海道五十三次」の景観を取り入れながらも、時代の

変化を感じることができるといえます。

Eピローグ 東京の道をゆく

1872年(明治5)に新橋-横浜間で鉄道が開業し、馬車・人力車が導入されたことで、交通手段や旅のあり方は大きな変化を遂げました。しかし、明治以後も「江戸の街道」は交通の基盤として利用され、現代の私たちにとつてもなじみの深い道となっています。過去から現在まで続く、街道の歴史をご覧ください。(学芸員 杉山哲司)

information

特別展 「江戸の街道をゆく ~将軍と姫君の旅路~」

開館時間:9:30~17:30(土曜日は19:30まで)
※ 入館は閉館の30分前まで。
会場:1階特別展示室
休館日:5月7日(火)・27日(月)、6月3日(月)・10日(月)
主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券	特別展前売券
一般	1,000円(800円)	1,280円(1,020円)	800円
大学生・専門学校生	800円(640円)	1,020円(810円)	640円
中学生(都外)・高校生・65歳以上	500円(400円)	640円(510円)	400円
中学生(都内)・小学生	500円(400円)	なし	400円

※()内は20名以上の団体料金。
※次の場合は観覧料が無料。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。
※シルバーデー(5月15日)は65歳以上の方は無料です。年齢を証明できるものをご提示ください。
※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展示室観覧料が無料のため、共通券はありません。
※チケットは江戸東京博物館のみで販売いたします。
※前売券は3月1日(金)~4月26日(金)まで販売。4月27日(土)からは当日料金で販売。

展覧会の見どころ

本展で注目していただきたいのが、朱色の爪折傘(朱傘)です。江戸時代、徳川家に関する題材を描くことは禁止されていました。そこで制約を逃れるために、貴人のみが使用を許された朱傘を象徴的に描き、将軍や姫君を暗示しました。朱傘は将軍上洛や婚礼の行列を描いた絵画作品に見ることができますので、ぜひ探しながらご覧ください。

そして、一番の見どころ資料は「楽宮下向絵巻」です。十二代将軍徳川家慶に嫁いだ楽宮の下向を描いた絵巻で、これまで常設展では一部分しかお見せすることができませんでした。本展では、全長約24メートルすべてをお見せできるよう展示します。街道を旅する姫君の様子をお楽しみください。

企画展

市民からの おくりもの2018

—平成28・29年度新収蔵品から—

2019年3月19日(火)～5月6日(月・休)
常設展示室 5F企画展示室

前期 3月19日(火)～4月7日(日)
後期 4月9日(火)～5月6日(月・休)
※会期中に展示替えがあります。

当館では、江戸東京の歴史と文化に関する資料を収集し、それらを未来へ伝えるために保存管理しています。また、資料が持つさまざまな情報について調査研究を行い、その成果を展示などで公開しています。

本展は、当館が新たに収蔵した資料を、みなさまにご覧いただく展覧会です。今回は、平成28・29年度の2年間にわたり収蔵した資料をご紹介します。平成28年度は1171点、同29年度は895点にのぼる資料を、「江戸博コレクション」の仲間に加えることができました。この中から厳選してお披露目します。

今回の注目ポイントをご紹介します。まずは、江戸の名所として親しまれた亀戸梅屋敷に関する珍しい資料です。亀戸梅屋敷は、歌川広重の浮世絵版画「名所江戸百景」に描かれたことで有名な梅園です。代々喜右衛門を名乗る安藤氏が、ここで採れる梅の実を江戸城に納められた。そのご子孫が大切に伝えてきた関係資料を寄贈していただくことができました。梅屋敷の看板や江戸城出入りの鑑札・由緒書など、幕府とのつながりを示す貴重な資料の存在が明らかになります。

次の注目ポイントは、分館の「江戸東京たてもの園」に移築展示されている茶室「会水庵」の関係資料です。会水庵は、大正から昭和にかけて活動した宗偏流の

茶人・山岸会水が建てました。このたび、会水のご遺族から、会水ゆかりの品々が寄贈されました。自分で窯を築き茶掛けの筆も取るなど、多才だった会水自作の茶碗や書画などをご紹介します。

この他にも、歌川豊春の肉筆画の大作、近年評価が高まっている詩絵師・柴田是真の下絵類などの絵画も展示します。

江戸の風俗と文化を伝える浮世絵から、近現代の東京生活を物語る生活用品に至るまで、バラエティー豊かなコレクションの世界をお楽しみください。

(学芸員 落合則子)



みどころ
筒茶碗 銘葛城(会水庵資料)
山岸会水 作 大西良慶 銘
1933年(昭和8)
資料番号 16000393



みどころ
江戸城出入りの鑑札(亀戸梅屋敷関係資料)
1861年(文久元)
資料番号 17000004

みどころ
浅草寺図 歌川豊春 画
江戸後期 資料番号 17200218
(展示期間:3月19日(火)～4月7日(日))

お得な特別展観覧券

「えどはくプレミアムチケット2019年度」発売!

「えどはくプレミアムチケット2019年度」4つの特典

- 1. 特別展観覧券が5枚ついてくる!**
2019年度に開催する5つの特別展を1回ずつ、またはお気に入りの展覧会を繰り返し観覧することができます。
※1展覧会につき使用できるのは4枚までです。
- 2. スタンプラリーを楽しもう!**
特別展観覧券を利用することにもらえるスタンプを、2種類と5種類集めた方に、各1回まで特別展オリジナルグッズを進呈します。
- 3. 常設展が無料に!**
本チケットをお持ちの方は、特別展観覧券の利用日に常設展も無料でご覧いただけます。
- 4. 一緒に来館される方にもサービス!**
本チケットを利用される際、本チケットをお持ちの方の同伴者1名様につき、特別展・常設展が2割引の料金でご覧いただけます。
※本チケットは、購入時にご記名いただいた方1名様に限り、ご利用いただけます。



江戸東京博物館公式キャラクター
ギボちゃん

2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会開催を翌年にひかえ、江戸東京博物館ではオリジナリティあふれる特別展を準備しています。これらの展覧会を多くの方にお楽しみいただけるよう、「えどはくプレミアムチケット2019年度」を発売いたします。

information
販売価格: ¥3,700 (税込)
販売期間: 2019年3月19日(火)～2020年1月19日(日)
有効期間: 2019年4月27日(土)～2020年3月31日(火)
販売場所: 江戸東京博物館チケット売り場(1・3階)
※詳細は当館ホームページまたはチラシをご覧ください。

■2019年度特別展のラインナップはp2をご覧ください。

キュレーターズ・チョイス Vol. 3

江戸博コレクションから 「教育立身書之九」 秋葉大助の人力車改良図

人力車営業は、1870年(明治3)に人力車製造が許可されたことにはじまる。

本図は、立身出世を学ぶ教材として描かれたものであり、人力車改良に貢献した秋葉大助を取り上げている。

秋葉大助は、元々、武器や馬具を販売していたが、時勢の変化を見て、人力車製造業を始めた人物だ。画面中央に描かれた秋葉大助と複数の外国人との取引の様子から分かるように、人力車はアジアやヨーロッパからも需要があった。当初、簡易なつくりであった人力車を改良したことから、外国にも輸出されるようになった。

秋葉製の人力車は、第一回内国勸業博覧会にも出品され、最高の賞である鳳紋賞を受賞している。銀座



教育立身書之九 秋葉大助の人力車改良図 小林習古 画
1903年(明治36) 資料番号 99001032

4丁目の店舗は賑わい、製品は「大助車」と呼ばれるほど好評だった。本図の解説書きによると、製造業を担う若者の手本と評されている。秋葉大助は発明者ではないが、改良と業務拡張が国益につながった点が、立身出世を体現する人物として評価されたであろう。

(学芸員 菅井薫)

新収蔵品の紹介

平成30年度も、みなさまのご協力によって、多くの博物館資料を収集することができました。その一部をここに紹介いたします。

*各資料の解説は、学芸員栗屋朋子・杉山哲司・落合則子・田中裕一が担当しました。

1 会いに行ける美人 水茶屋の看板娘 笠森お仙

鈴木春信(不明〜1770)は、錦絵の創始期に活躍した浮世絵師です。1786年(明和5)頃より江戸市井の美しい女性を錦絵の主題とし、当世の興味を刺激した春信の作品は人気を博しました。「浮世美人寄花」は実在の美人を花になぞらえた作品で、この「卯花」では谷中笠森稲荷の水茶屋「鍵屋」の看板娘お仙をとりあげています。笠森稲荷を表す朱鳥居の前、炉と茶釜を置いて茶を供する水茶屋の店先で、蕙の紋の小袖を着て盆を持つ、すらりとした美人がお仙です。縁台には「おせん様」と書かれた文が見えます。



浮世美人寄花 笠森の婦人 卯花
鈴木春信 画
1768年(明和5)〜1769年(明和6)頃
資料番号 18200002



浮世美人寄花
楊枝屋婦 蕙菜
資料番号 91200256

お仙と人気を二分した浅草寺奥山の楊枝屋「本柳屋」娘お藤も、同シリーズの「蕙菜(当館蔵)」に描かれています。これで明和の美人二人が当館に集まりました。

2 徳川将軍家と 宮家をつなぐ 婚礼道具

女性たちの婚礼を彩るのは数々の道具や衣裳です。武家社会において、貴族の調度品が婚礼道具として整えられるようになり、江戸時代に最盛期を迎えました。本資料は、徳川家の葵紋と閑院宮家の浮線菊紋に、牡丹唐草が施された耳盃。両家の縁組は、十代将軍家治に嫁いだ五十宮倫子(心観院)、御三卿の田安家三代斉匡の正室・裕宮貞子、同家五代慶頼に嫁いだ睦宮光子のいづれかと考えられます。



村梨子地 葵浮線菊紋 散
牡丹唐草蒔絵耳盃 輪台共
江戸後期
資料番号 18200005

耳盃は平安時代以来の角盃(つのだらい)ち運びのための角状の取っ手が付いている(盃)を簡便にした器で、側面に耳状の取っ手が付けられていることから名づけられました。付属の貫き簀は、耳盃に被せ、水が飛び散るのを防ぐために使われます。

3 天保改革で 芝居町に替えられた 大名屋敷

現在の台東区浅草6丁目は、かつて「猿若町」という芝居にちなんだ地名で呼ばれました。それは、江戸時代の末から明治前期まで、そこに歌舞伎の劇場があったことに由来します。それ以前は、堺町・葺屋町・木挽町に、江戸三座と呼ばれた幕府公認の芝居小屋がありました。ところが、天保の改革で江戸市民に対し厳しい綱紀粛正を行った幕府は、1842年(天保13)、芝居小屋を当時、江戸の郊外だった浅草のはずれに追いやってしまったのです。このとき移転先に選ばれたのが、園部藩小出伊勢守の下屋敷で、総坪数1万78坪という広大な土地でした。

この絵図は、幕府に召し上げられる前の下屋敷の姿を描いたもので、築山や池を巡る回遊式庭園が設えられていた様子がわかります。失われた大名藩邸の姿を伝え、また天保改革の史実を物語る、大変珍しい資料です。



丹波国園部藩小出家下屋敷絵図
江戸末期
資料番号 18000065

4 希少な 江戸彫金師の一品

木瓜形の鐔で、鉄地に蓮の花と葉を彫り上げ、裏に「一則」と銘を切り、府川一則の号である「九九盤」の金印が添えられています。蓮の花には茎の部分から金象嵌が施され、滴に金と銀の露象嵌を用いた作品です。

府川一則(初代1824〜1876年)は江戸の彫金師です。葛飾北斎に入門し絵師として活躍しますが、北斎の死後、徳川将軍家の刀装具を手がけた後藤家の門流に師事し、彫金の道に転じました。当館には、府川家から寄贈された初代一則及び三代一則の注文帳や下絵・道具類が収蔵されています。1861年(文久元)の注文帳に、本作品の発注を控えたと推測される記述が見られることから、文献資料と対応する希少な作品の可能性があります。



蓮図鐔
府川一則(初代)作
江戸末期[1861年(文久元)頃]
資料番号 18200008

5 震災の記憶を 伝えたい 渾身のコレクター魂

1923(大正12)9月1日、関東大震災が発生し、東京は大きな被害を受けました。

これは、関東大震災に関するさまざまな資料を集めた、およそ800点にのぼるコレクションです。旧蔵者は、震災発生後まもなく収集を始めたものと思われ、軍や行政機関が出した文書類や、震災を報道する新聞もありますが、なかでも注目されるのは、市内に配布されたポスターやビラ類です。これらの資料からは、被災者の生活支援や治安維持に対して速やかに取られた対策や、市民が力を合わせて復興へ向け歩む様子がわかります。その性質上残ることが少ないポスター類が、良好な状態で保存されているのは珍しいことです。このコレクションからは、旧蔵者がこの悲惨なできごとを後世に伝えようとした情熱が伝わってきます。



ポスター
「罹災傷病者は誰でも手続を要せず無料で入院が出来ます」
1923年(大正12)
資料番号 18200347



ポスター
「江戸っ児の手並は復興帝都の檜舞台で」
大正末期
資料番号 18200126

鹿嶋屋の東店と雛人形

学芸員 小酒井 大悟・文

旧暦では間もなく、3月3日の雛祭りややってくる(今年の4月7日)。

当館のコレクションには、いくつかの雛人形や雛道具があるが、なかでも、写真の雛人形は、日本橋十軒店(現・中央区)で活躍した名工・原舟月(二代)作の優品である。写真の、白髪を湛た内裏雛は、百歳雛という珍しい雛で、夫婦ともに白髪になるまで仲むつまじく、との願いが込められているという。

これらの雛人形は、霊岸島四日市町(現・中央区)で下り酒問屋を営み、江戸有数の大店であった鹿嶋清兵衛家(鹿嶋屋本店)の分家に伝わった。この分家を東店といった。

では、東店はいつごろ、どういう経緯で本店から分かれたのか。「本店東店系図」を手がかりに見てみよう。この系図は、本店・東店の歴代当主とその配偶者、子供たちの名前や没年、主な来歴などが記された貴重な記録である。



東店に伝わった内裏雛 翁(右)と媪(左)
原舟月(二代)作 文政10年 資料番号 98002698・98002699

これによれば、本店三代清兵衛には男子がなかったため、馬吉という男子を養子としていた。その後、三代清兵衛に利吉という実子が生まれたが、家督は馬吉が継ぎ、四代清兵衛(系図

の釋慶善)となった。この四代清兵衛には子がいたが、結局、義弟の利吉に本店を継がせた。そして、自らは清左衛門と改名して、深川島田町(現・江東区)に「隠居店」を出し、おそらくは妻や子らとともに住むようになった。

これが東店で、系図では彼を東店の「元祖」と記している。東店は、本店四代清兵衛がいわば身を引く形で隠居分家して成立したのである。

当館蔵の東店の関連資料は、ほぼ1807年(文化4)以降のものであるため、東店の分家もこの頃と考えられる。また、本店三代清兵衛の没年が1794年(寛政6)なので、四代清兵衛は十年ほど本店の当主をつとめたのち、身を引いたのではなかったか。こうして、本店四代清兵衛改め東店「元祖」清左衛門は、深川島田町の地で新たな店を営み、盛り立てていった。そうしたなかで、自分の娘の幸せを願い、1827年(文政10)に買い整えたのが最初に述べた雛人形で、これらは当時の東店の繁栄ぶりを物語る。



本店東店系図(部分)
資料番号 98002153

雛人形のほかにも、当館が所蔵する東店の関連資料には、江戸の大店の暮らしぶりを今日に伝える品々が数多く残されている。近い将来、これらを紹介する機会を得たい。

1964年を知ること、2020年がもっと楽しみになる！
—東京オリンピック・パラリンピックへ向けて—
図書室からお知らせ

東京オリンピック・パラリンピック大会開催まで、あと500日余りとなりました。各競技場の建設も進み東京の街並みが変わる中、関連イベントや大河ドラマの影響もあり、2020年へ向けて期待が高まっています。

前回の東京オリンピック・パラリンピック開催時は、どのような様子だったのでしょうか。東京はどのように変化し、大会を迎えたのでしょうか。日本中が熱狂し、戦後復興を世界に印象づけた

1964年を知ること、来る2020年大会をより楽しむことができるはず

図書室ではオリンピック特集コーナーを設け、一般に流通している書籍のほか、東京都が発行した当時の資料や、他ではなかなか見ることができない本も多数紹介しています。東京での開催を懐かしく思う方も初めての方も、ぜひ当時の貴重な資料を図書室で手に取ってご覧ください。



図書室「オリンピック・パラリンピック関連書籍コーナー」
※現在、1964年大会関連の図書を中心に紹介しています。
(時季により図書を入れ替えて2020年9月まで設置)

国際交流事業
北京・首都博物館で共同企画の交流展
「都市・暮らし」
—18世紀の東京と北京—を開催

この展示会は、2002年から続く中国・北京の首都博物館と当館との交流の成果として、2018年8月14日から10月7日まで同館で開催されたものです。両館が共同して企画・調査・研究を行い実施した交流展で、これに先立ち、2017年2月18日〜4月9日に特別展「江戸と北京—18世紀の都市と暮らし」展を当館で開催しました。18世紀を中心にした江戸と北京のなりたちや、生活、文化を比較する内容は同じですが、北京では、来館者ニーズを考え江戸の資料を多く展示しました。

当館の収蔵資料が中国で展示されるのは初めてです。入場者数は50日間に2万8790人(1日平均5576人)と大盛況で、多数の中国メディアにも取り上げられました。来館者のコメントも「東京や日本文化の理解に役立った」、「同時代の両



首都博物館の展示会場